

社会福祉法人 山善福祉会

「やまぜんフィールド」

2021.12

制作：ネーミング・考案 伊藤尚美 | デザイン 角谷 慶 (Su-)

2023年（令和5年）4月

大阪府茨木市車作・大岩・福井に位置する

安威川ダム周辺整備事業の隣地に

社会福祉法人 山善福社会が

これまで展開してきた福祉事業の集大成となる

「やまぜんフィールド」を開設します。

延べ面積 約6050坪（2万㎡）の広大な敷地内では

鶏、ヤギ、ひつじ、馬を育て、田畑や果樹園では農作物を栽培するなど

自給自足を運営方針とした「やまぜん こども園」（山善福社会としては13園目）があり

また、地域交流の中心的存在として

地域の農家や生産者の方々の食材を販売するマルシェを開催するなど

ここ「やまぜんフィールド」は

人びとと共に生きる、開かれた場所になることを目指します。

この資料は、これらの様々な想いと要素を込めて作られた

ネーミングとロゴのコンセプトブックです。

「やまぜんフィールド」

ネーミングについて

山善から

「やまぜん」と平仮名で表記

子どもらしさ、親しみやすさ、読みやすさ
「やまよし」と間違えないように。

フィールド

フィーという伸びやかな音は、心地よく 口笛のようで
風のようにかけ抜ける子どもたちのようでもある。

「やまぜん」という潔い響きに、
「フィールド」を添えることでバランスの良さ、調和が生まれる。

広がり、さわやかさ、風通しのよさ。
「やまぜん」と結びついた時、新たな景色が生まれ想像へとつながる。

緑、水、自然の豊かな環境で、人や動物も肯定的に結ばれていく。

「やまぜんフィールド」

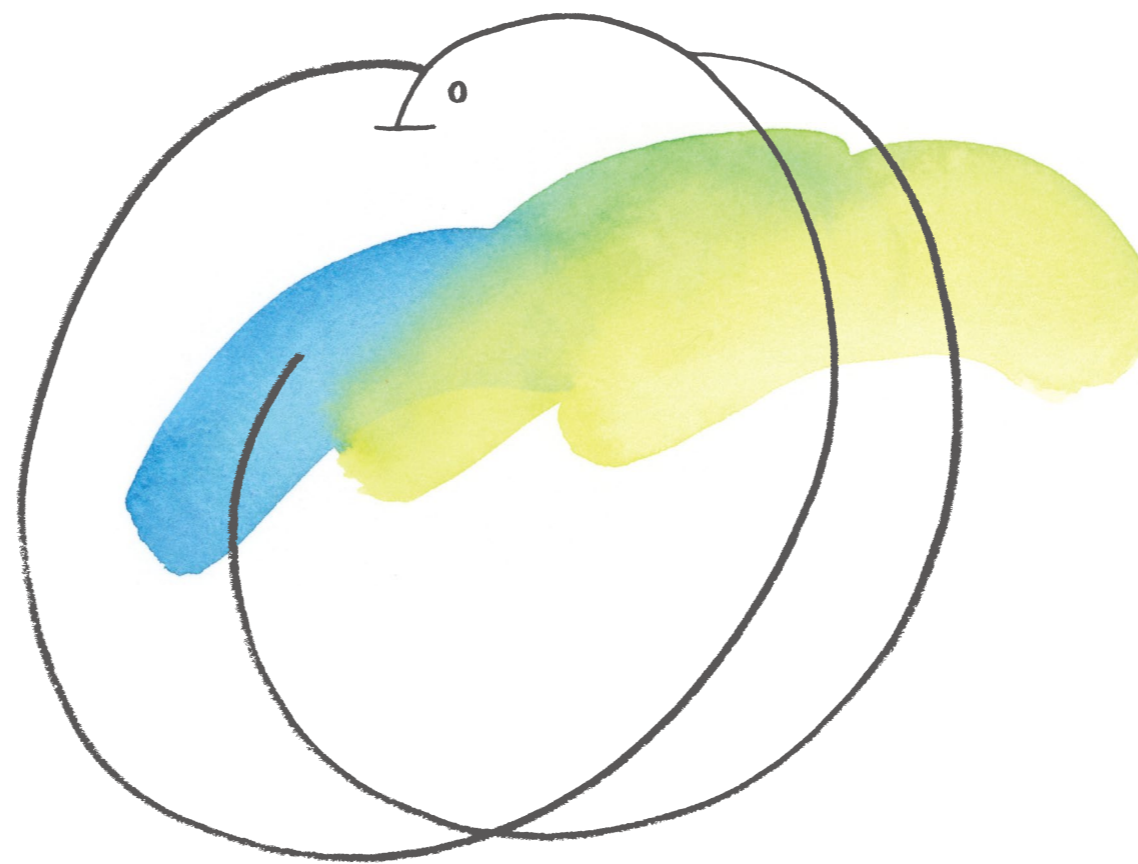
ロゴについて

まもる ふくよか いただく

山を見渡し、目の前に開ける大地、
水辺がきらめき、風が吹く。
木々の香りも季節ごとに循環している
その全部をまあるくふくよかに
母のようにいただく存在感をマークに込めて。

マークは、この場（フィールド）全体のことであり 母であり、保育士であり、大きなそれぞれのご先祖のよう。
今も、そして時間軸を超えて「大丈夫、見守られている」というメッセージが込められている。

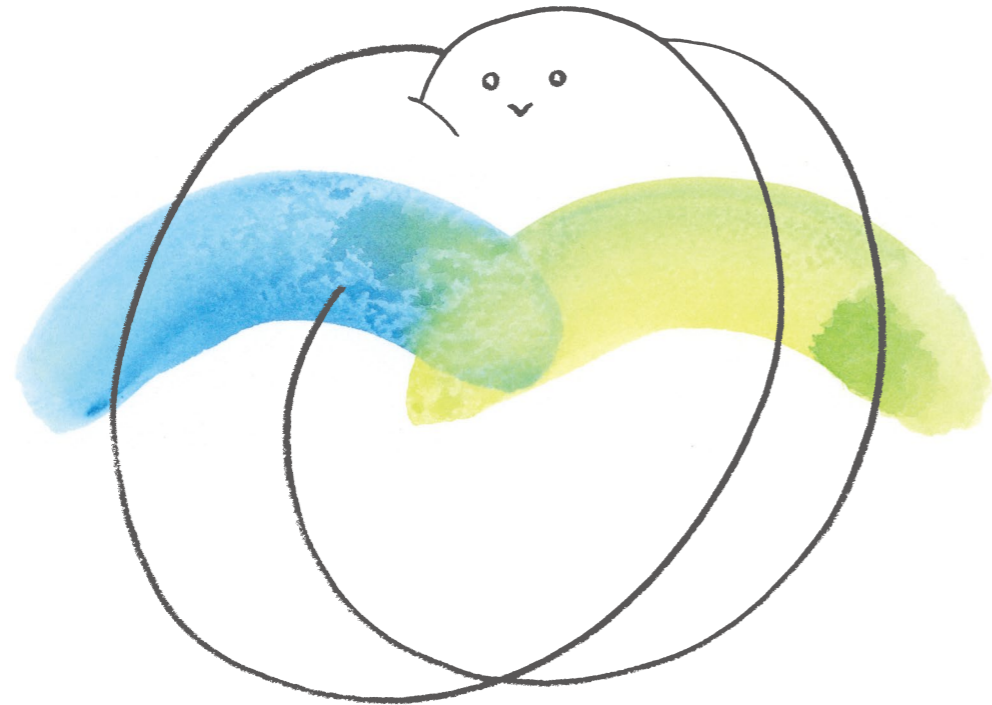
森・水辺・ファームや果樹園、彩り豊かな存在や場は触れ合いながらぐるっと繋がっている。
生物がモチーフになることで地域の認知力も促進される。
この場への願いを、これから
ひらきそうな蕾の姿や重なるハートのような形に託すし
これから羽ばたく兆しも感じる、
右肩上がりの水彩を添えた。



やまぜんフィールド

「やまぜんフィールド」

ゾーンの名称 と マーク & カラー



やまぜん こども園

やまぜん こども園

～自然と人がつながる場所で

豊かな大地に触れながら
日々、繰り返しの中で育まれる肯定感、
そして野生感。

それらは
これからの人生への大きなギフトです

——
やまぜんフィールドの真ん中にある
「やまぜんこども園」は

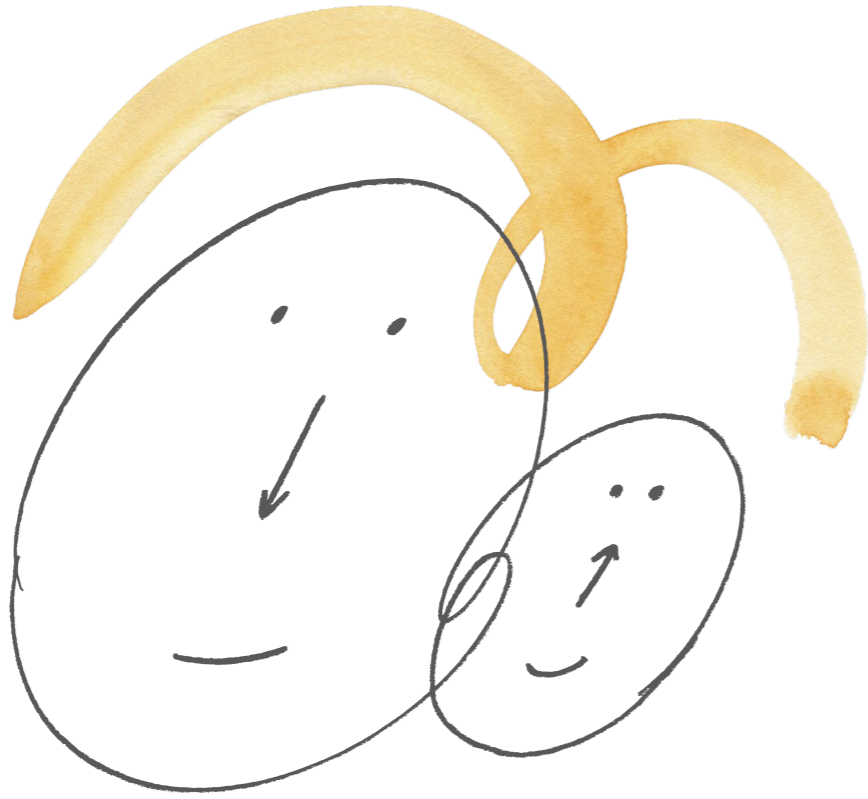
水辺とつながる広い丘や森、小さな果樹園やファームがあり
人が耕す場所の中で大恩恵に触れ合いながら

光をあびて、あたえあう場所です

発見や感動の中で
息吹、葉の揺らぎ、水辺の色彩、歌うように咲く姿、実りを愛で
感性豊かに、ひと時を積み重ねていく。

まっすぐに未来へと続く

無垢な眼差しを希望に輝かせて。



駐車場

en のりば

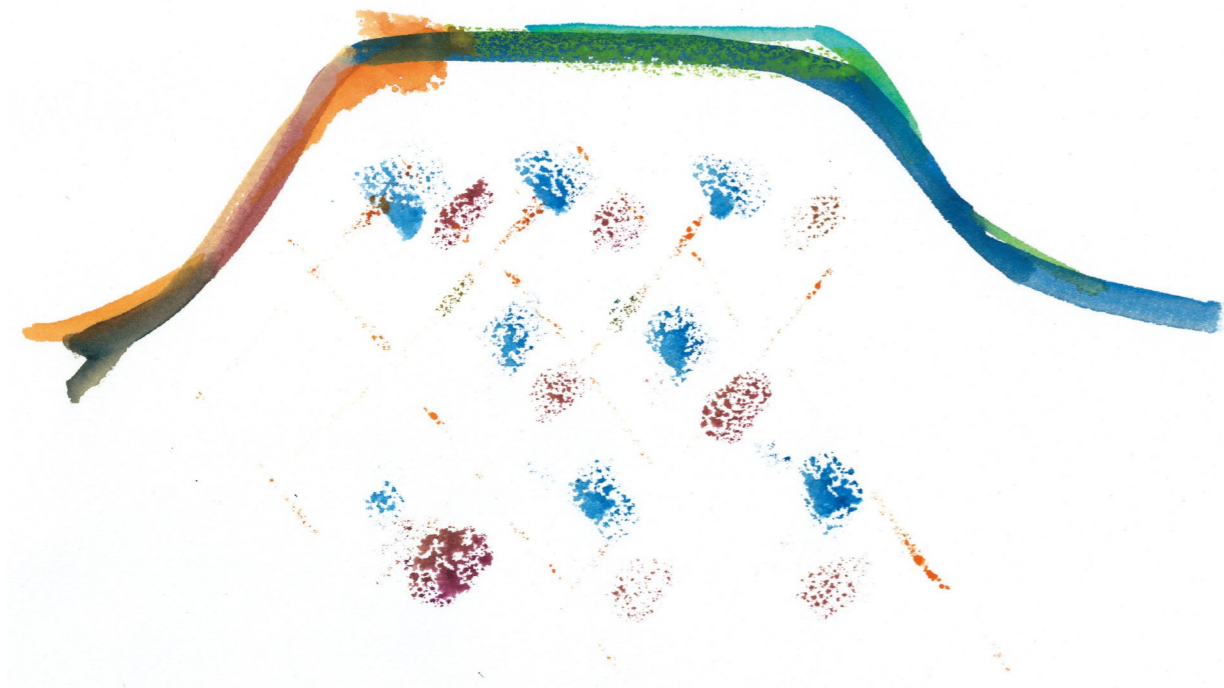
親と子がここで
「行ってらっしゃい」「おかえり」と
言い合う接点の大切な場所、入り口



マルシェ

en マルシェ

園の中のマルシェ、
人と人、人と自然のむすびつきを
実感できる場や時間



里山ゾーン

どろんこの里

活動的に土の上を動きまわり
大地と共に生きる場



農業ゾーン 動物ゾーン

いこいファーム

動物とのふれあい、作物が育つ実感。
共に分かち合う活動的なオアシス



森ゾーン

よしよしの森

大きな木は見上げるとかっこいい。探検しよう。
育む心は肯定感を養い「よしよし」と受け入れる力のよう。
お母さんのやさしい言葉にもかけて。



丘ゾーン

good の丘

なにになってもいい。なにをしてもいい。
広い広いフィールド。
善（ぜん）を英語で。グッドと響かせる。



果樹園

丘の果樹園

花が咲き、お世話をして、実りとなる。
みずみずしい果物を手に取るとき、丘に香りが広がる。

「やまぜんフィールド」

考察とモチーフ作案

1

作案の流れ

音、役割、場の考察

山



yama

善



まる

zen

良い、よし、肯定感

yoshi

園の図面から

山と水辺を結ぶ → 道ができる

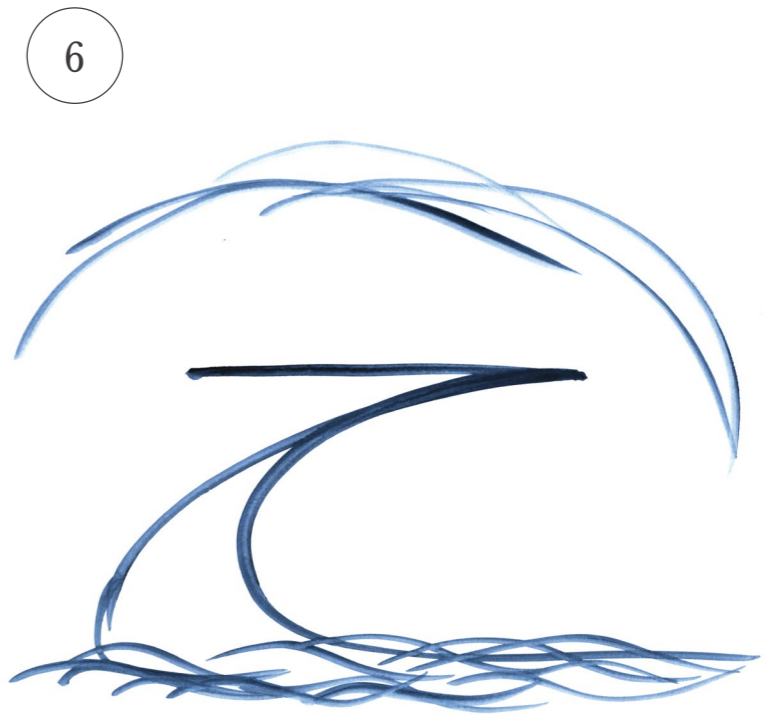
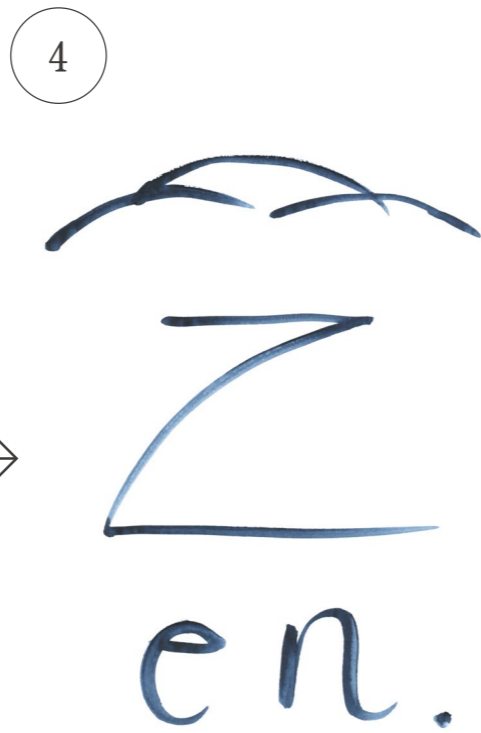
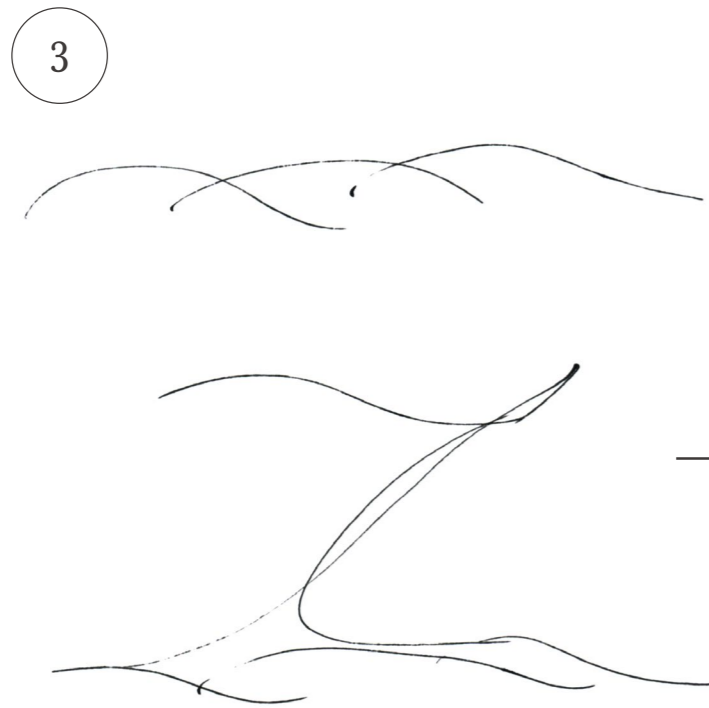
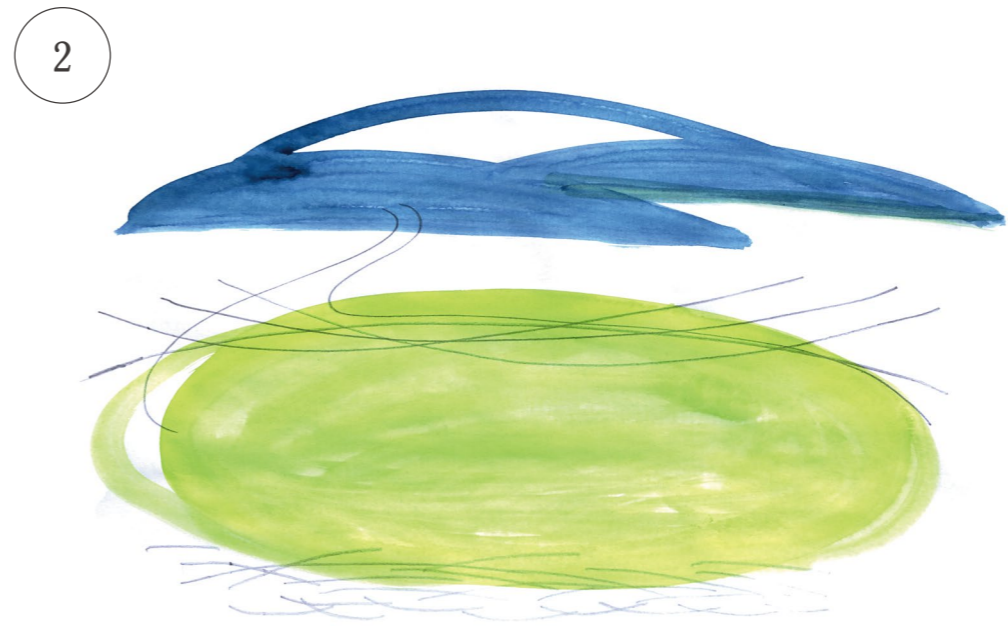
→ en 縁を結ぶ

→ いこいの場

→ 育む場

それらを「つながる つなげる」 → zen にこめる

禅 全 然 善



2

水彩での考察

光の動きをみる

めばえる 流れる あらたに 広がり

安心感 高まり 循環 冒険
(やすらぎ)

いこい 発見 感動 恵み

四季 生死 高台→水辺 広々とした

いろいろな要素を

透き通った色の動きが集まり生まれていく

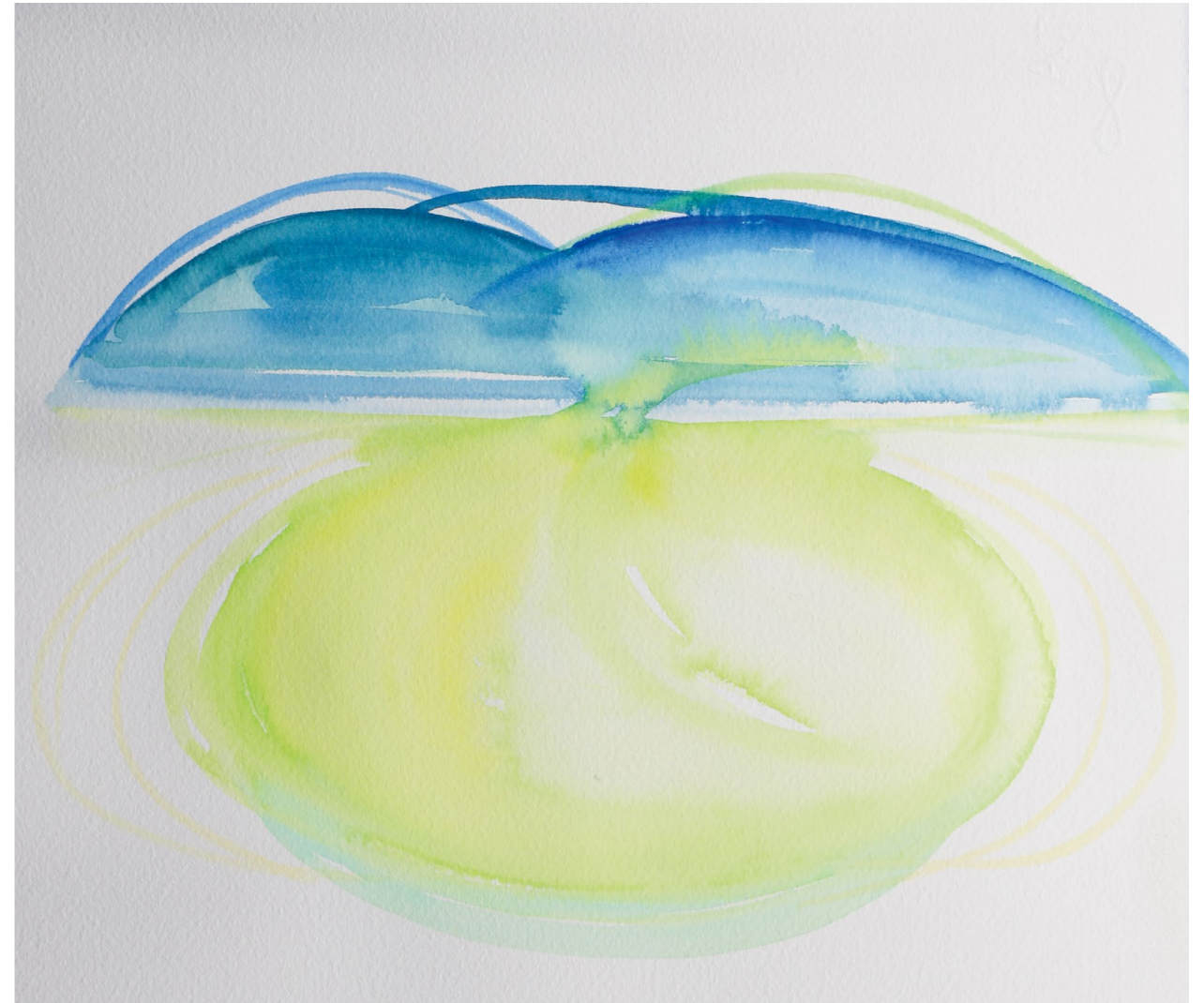
光のある場 光を与え合う場

色とりどりは豊か、それらがつながり

時に合わさっていく、影響を与え合っていく

ひとつのフィールドとして捉え

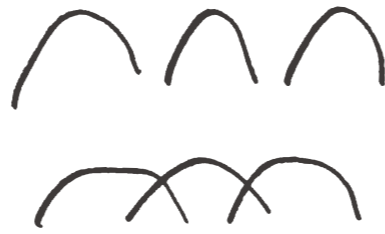
その中に、こども園が中央にある



3

マークの考案

自然をつかさどるエレメント、そして人と自然をむすび、人と人を結ぶ場である
フィールドの中に大切なメッセージを込めていく



上には
山

高台から入っていく

山 善を入れる



下には
水の流れ

立地を入れる

光があたり、きらめく水辺
むこうに風がある景色



その間に
道・場

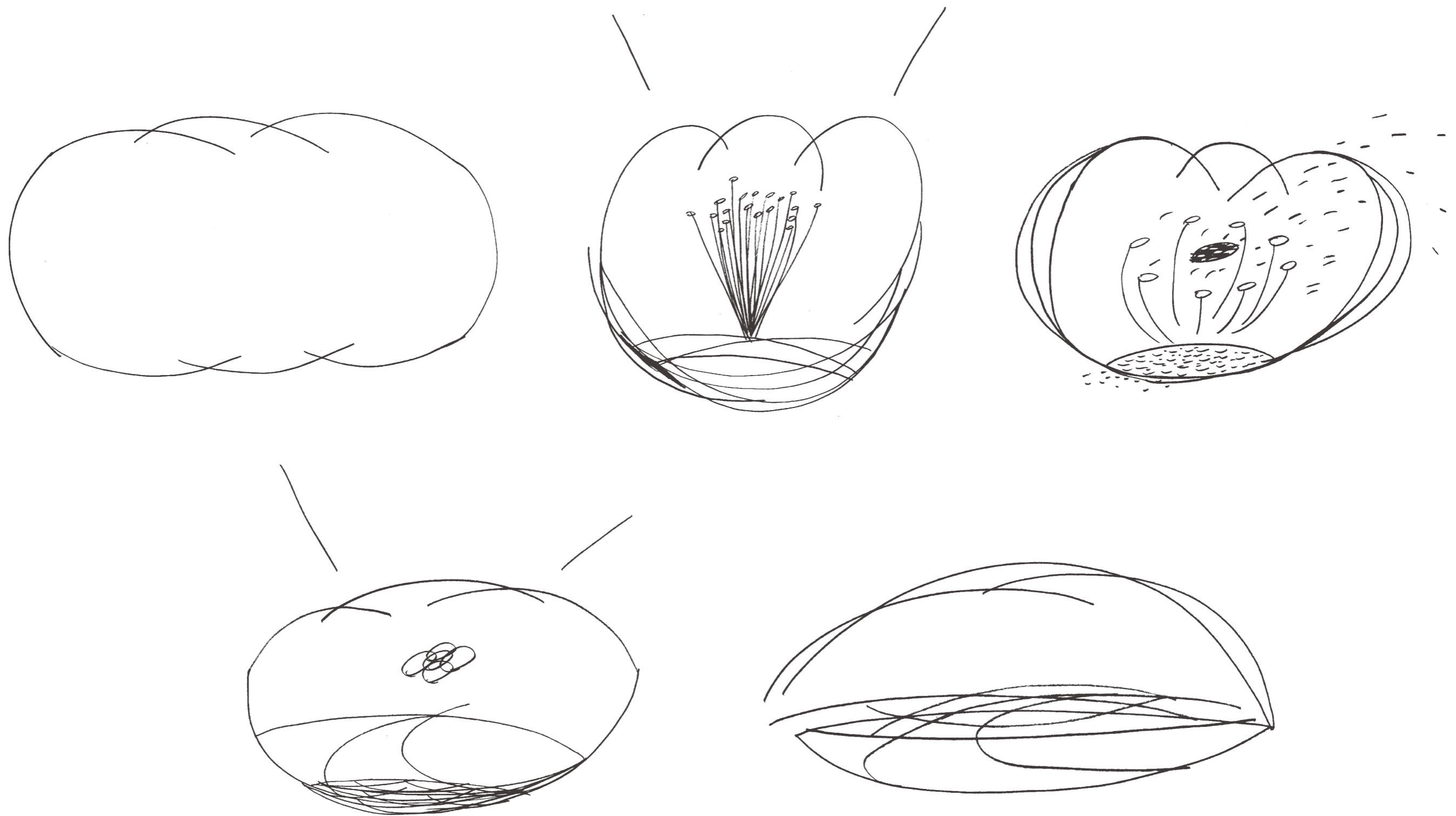
育む場、時間の旅を
ここで始める

形は Z や & を想う



つながる
縁 en
良い

zen
善
yoshi



ネーミング・考案

伊藤尚美

Naomi Ito

三重県伊賀市生まれ。水彩画家・テキスタイルデザイナー。自然からのエレメントに着想を得て、詩を紡ぐように描く。1994年より大阪、東京、パリを拠点に作品を発表し始める。

2002年よりテキスタイルデザインにも活動の幅を広げ、「nani IRO Textile」のプロデュースをスタート。書籍の装丁、TVCM、ドラマの映像画、絵本などを手がける。内装やCI計画、言葉と水彩を使ったワークショップなども行っている。ADC賞、TDC賞、ブルノ国際グラフィックデザイン・ビエンナーレほか入選多数。近著に『ATELIER to naniIRO 季節をまとう一年の服』（文化出版局）、『詩うゆび先ー伊藤尚美水彩画集』（青心社）がある。

デザイン

角谷 慶

Kei Sumiya

和歌山県日高生まれ。グラフィックデザイナーとして、2015年に独立。デザインオフィス「Su-」を兵庫県芦屋川に開設。 <http://su-u.pw/>